

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 9 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	4079600294		
法人名	有限会社 エイブル		
事業所名	グループホーム 秋桜		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字田原248-32 〒 827-0004 (電話) 0947-72-3506		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年9月18日	評価確定日	平成21年10月15日

【情報提供票より】(平成 21 年 8 月 1 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和 ・ 平成 15 年 2 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	8 人	常勤 6 人	非常勤 2 人 常勤換算 6.5 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての～		1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(100,000 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	400 円	おやつ	円
	または1日あたり	1,200 円程度		

(4) 利用者の概要(8 月 1 日現在)

登録人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護 1	1 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	0 名		
要介護 5	2 名				
要支援 1	0 名		要支援 2	1 名	
年齢	平均 82 歳	最低 73 歳	最高	90 歳	

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	田中内科医院・松岡病院・川崎町立病院・沖歯科・ふくち歯科
---------	------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

現代表の実母の介護をきっかけに開設されたホームである。ホーム内は天井が高く、自然採光、自然換気で程よく調整され心地よく、ゆったりと落ち着いた空間作りがなされている。家庭的で落ち着いた静かな環境の中、利用者のペースにあわせて「ともに生きる。目配り・気配り・心配り。手は最小限に。」の理念を実践し、職員は、常に待姿勢で、利用者の出来る事を見守りながらケアを行っている。家族に対し、支払い時の来訪を義務付けることにより、利用者との関係性の継続を図っている。また、近隣の他施設と合同でのお花見や行事等の開催を通じて、利用者・職員間の交流を図るなど、利用者・家族・職員・地域を意識した関係づくりに積極的に取り組んでいる。今後、地域との更なる交流と利用者の視点にたった質の高いケアへの取組みが期待できるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の結果については、ミーティング時や申し送り時を利用して報告を行うなどの取組みがある。この過程で、地域とのかかわりを意識した取組みがある。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたり、自己評価項目を職員に振り分けて取り組む等、職員がかかわっての取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	隣接する地域の区長、民生委員、婦人部、行政担当職員、家族等が集っての2ヶ月毎の開催がある。ホームからの報告の他に、地域に住む独居高齢者に関する相談にのったり、家族が行政担当者へ直接、質問・要望を出すなど、意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	家族来訪時の面談、毎月のおたよりの送付、介護計画書の変更時等を通じて、様々な報告や説明が行われるとともに、家族の意見や思いの表出に努めている。出された意見等については、申し送りやミーティング時に協議するなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域の理髪店や美容院の利用、地域にあるスーパーの利用、地域行事への見学など、日常生活でのかかわりを通じた交流が行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設時の理念を基に、職員間で協議を行い、 分かりやすく、覚えやすい理念の再作成を行う などの取り組みがある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	日常のケアの中で、常に理念に沿ったケアへ の取り組みを意識しながら、その都度の指導等が 行われている。職員は、常に待つ姿勢で接して おり、理念の実践が伺われた。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	地域の理髪店や美容院の利用、地域にある スーパーの利用、地域行事への見学など、日常 生活でのかかわりを通じた交流が行われてい る。		行政区の境目に立地するという立地条件の もと、隣の区長と連携を図る等の取組みが見 られます。今後、さらに踏み込んだ地域との 交流への取組みを期待します。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の結果については、全職員に報告を行 い、地域とのかかわりを意識した取組みがあ る。今回の受審にあたり、自己評価項目を職員 に振り分けて取り組む等、職員がかかわって の取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等につい て報告や話し合いを行い、そこでの意見 をサービス向上に活かしている	関係者が集っての2ヶ月毎の開催がある。 ホームからの報告の他に、地域の独居高齢者 に関する相談にのったり、家族が行政担当者へ直 接、質問・要望を出すなど、意見交換が行われ ている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議への行政担当者の参加が見られ る。また、地域包括支援センター職員がホーム 見学に来訪するなど、行政担当者及び地域包括 支援センター職員との連携が図られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	グループホーム協議会ブロック別研修への参 加と報告会を通じて、職員の理解を深めるた めの取組みがある。家族へは、制度等につい ての資料を配布するなどの情報提供が行われ ている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族来訪時の面談、毎月のとよりの送付、介 護計画書の見直し時の報告・説明等が行われ ている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族来訪時の面談、毎月のとよりの送付、介 護計画書の見直し時等を通じて、意見や思いの 表出に努めている。出された意見等につい ては、申し送りやミーティング時に協議するな どの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	3年以上の継続勤務職員が4名おり、そのうち 開設当初からの勤務者が3名在籍するなど、利 用者との馴染みの関係が確立している。新しく 職員が入職した際は、利用者と多くかかわり を持ってもらうなど、馴染みの関係作りへの取 組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用に関して、ヘルパー2級の義務付けているが、その他の制限は一切行われていない。上位の資格取得に向けた支援体制、非常勤職員から正職員への雇用形態の変更など、その時々状況に応じた取組みがある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>グループホーム協議会の全体研修やブロック別研修への参加を通じて、人権について学ぶ機会がある。</p>		
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会の全体研修やブロック別研修への参加が見られる。基本的に各種研修への参加は順番制をとっており、万遍なく研修参加ができるような取組みがある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会への各種研修会への参加、近隣の他施設と合同でのお花見や行事等の開催を通じて、利用者・職員間の交流への取組みがある。</p>		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前の面談を通じて情報収集と顔見知りの関係の構築に努めている。入居後は、頻繁な声かけを心がけ、他の利用者との関係性の中で、出来る事の把握と役割を持った生活支援への取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常のケアを通じて、料理の仕方や呼び名を教わったり、利用者の新たな一面を発見するなど、利用者の知恵や知識を学ぼうとする姿勢が伺える。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常のかかわりを通じて、利用者の思いや意向を把握し、把握した情報は、基本情報及びセンター方式の様式へ記入し、ミーティング時の情報共有と検討が行われている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常のかかわりを通じて、利用者の思いや意向を把握し、来訪時の面談等を通じて家族の希望や思いを把握している。ミーティング時に全職員の意見をもとに、3ヵ月毎の評価と担当者会議での協議を経て、介護計画書の作成がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	3ヵ月毎の評価と担当者会議での協議が行わ れている。また、毎朝の申し送りと月1回の ミーティング時に、全利用者について職員 の気づきを出し合い、情報の共有が図ら れている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を 活かした柔軟な支援をしている	地域の方の介護相談を受けたり、地 域の理髪店や美容院の利用支援、中 学生 の職場体験や専門学生 の研修の受け入れなど、柔軟な支援 が行われている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医 と事業所の関係を築きながら、適 切な医療を受けられるように支援 している	入居時に協力病院の説明を行い、 利用者・家族が入居後の主治医を 選択している。今までのかかりつけ 医への受診は、家族対応で可能で ある。介護保険の更新前に専門診 療科を受診し、正しい病名の把握 に努め、病名に応じた支援を行 うなどの取り組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方 について、できるだけ早い段階から 本人や家族等ならびにかかりつけ 医等と繰り返し話し合い、全員で 方針を共有している	契約時に、重度化した場合の治 療に関する事前指定書及び意思確 認書を得ている。その時々 の状況により、関係者による検 討を行い、時には本人の代弁者 となるなど、本人・家族の希望 に沿った支援に努めている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	利用者の視線に合わせた丁寧な声かけや耳元 での声かけ、利用者の出来る事を見守りながら の支援など、利用者の精神面でのかかわりに配 慮した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	利用者一人ひとりの生活リズムに配慮して、 入浴時間、入浴や食事にかかる時間、食後の過 ごし方など、利用者のペースを尊重した対応が 見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	野菜類を多く取り入れ、栄養バランスや見た 目を考慮し、利用者の希望を取り入れたメ ニューを作成している。食事の下準備や後片付 けを職員と利用者と一緒にっており、職員は 利用者と同じテーブルを囲み、和やかな雰囲気 であった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	朝から夕方の中で、利用者のペースに合わせ た入浴支援が行われている。数種類の入浴剤を 準備し、季節毎に変えたり、利用者の好きな入 浴剤を使用するなど、入浴が楽しみとなるよう な取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	配膳、下膳、テーブル拭き、洗濯物干し・た たみ、モップがけなど、利用者の出来る事や出 来そうな事を把握しての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常的な買物や散歩、近隣保育園や小学校の 運動会の見学、行政主催の行事への見学、年に 1度の泊りがけでの旅行など、積極的に戸外へ 出かけている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠されている。きめ細かな観察によ り外出傾向のパターンを把握し、さりげなく声 をかけたたり、利用者と一緒に出かけるなど、利 用者の自由と安全に配慮した支援が行われてい る。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年2回の消防署員立会いによる避難訓練の実 施がある。運営推進会議時に、避難訓練の実施 について協力依頼を行うなどの働きかけが行わ れている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	野菜類を多く取り入れ、栄養バランスや見た 目を考慮し、利用者の希望を取り入れたメ ニューを作成している。野菜類は一度下茹でし たり、ミキサー食に対応するなどの支援が行わ れている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや廊下の天井は高く、自然採光、自 然換気で程よく調整され心地よく、落ち着いた 空間となっている。ホーム内は、家庭的な雰 囲気であり、おだやかな利用者の表情から、居心 地の良さが伺えた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室には、箆笥、テーブル、椅子、写真、 仏壇などの馴染みの物や使い慣れた物が持ち込 まれており、利用者の個性が伺える居室となっ ていた。		

は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号